

## 3 . 社会と自然の概況

---

3-1 社会の概況

3-2 自然の概況

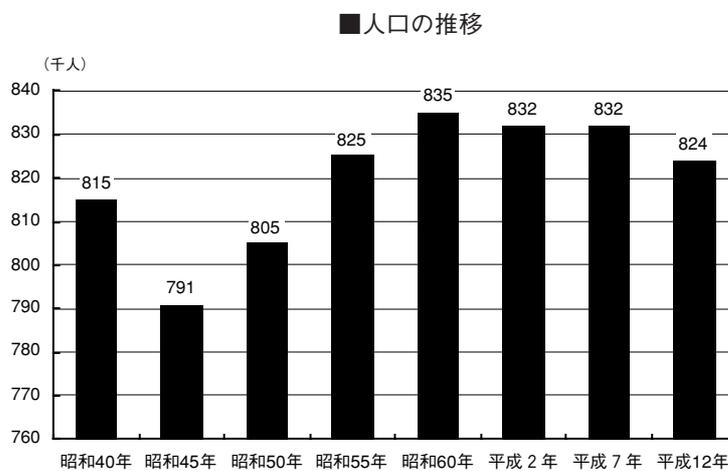
## 3-1 社会の概況

### (1) 人口

本県の人口は、平成12(2000)年10月1日現在約824,000人<sup>注)</sup>で全国44位、人口密度は199人/km<sup>2</sup>で全国32位となっています。人口は、大正から昭和30年代までは増加傾向にあり、昭和25(1950)～30(1955)年のピーク時には87万人を越えましたが、その後は数回の増減を繰り返し、近年は緩やかな減少傾向にあります。

1世帯当たりの人数は、昭和30(1955)年以降減少が続き、平成12(2000)年10月1日現在2.78人<sup>注)</sup>となっており、核家族化が進んでいます。

注) 平成12年国勢調査による



市町村別の人口密度は、徳島市を中心とする県の東部地域の市町が高くなっています。

■市町村別の人口密度

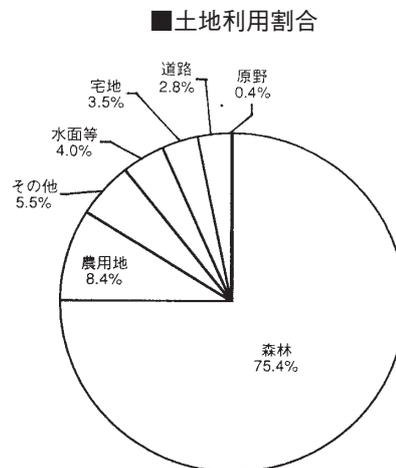
人口密度の高い市町村		人口密度の低い市町村	
市町村名	人口密度(人/km <sup>2</sup> )	市町村名	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
北島町	2,260.3	木沢村	6.2
藍住町	1,866.5	木頭村	7.9
徳島市	1,402.6	東祖谷山村	10.1
羽ノ浦町	1,377.3	木屋平村	13.0
松茂町	1,089.1	上那賀町	13.5
小松島市	959.6	一字村	15.8
石井町	902.6	西祖谷山村	18.0
鴨島町	749.1	上勝町	19.4
吉野町	643.8	美郷村	28.1
那賀川町	563.4	海南町	28.4

出典：平成12年度国勢調査

## (2) 土地利用

### 1) 土地利用の概況

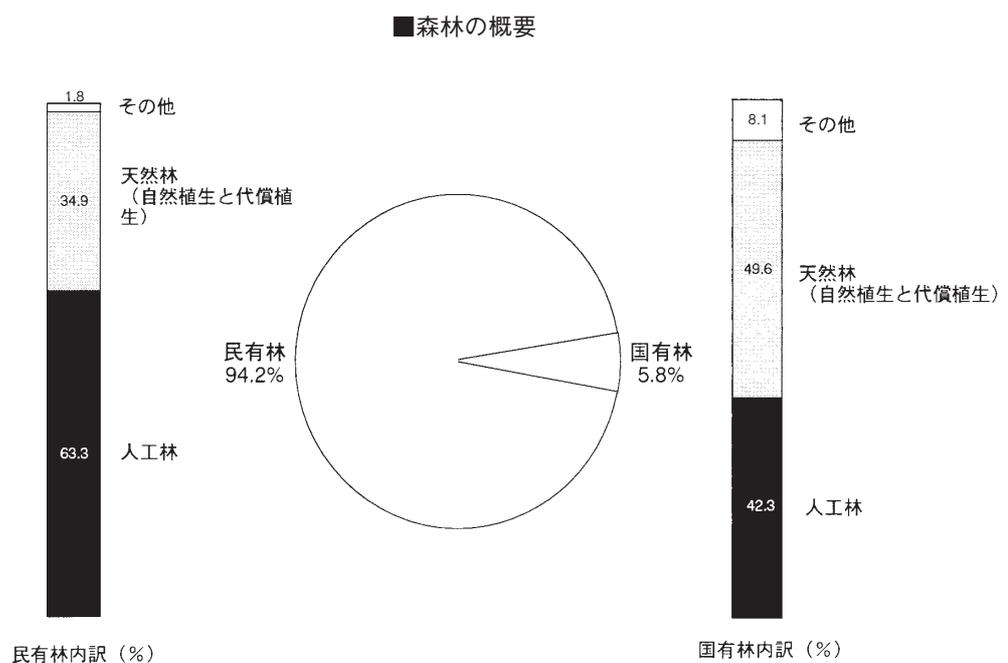
本県の土地利用は75.4%が森林、8.4%が農地、4.0%が水面、3.5%が宅地で、県土の約4分の3は森林に覆われています。



出典：県調査による（平成12年10月1日現在）

### 2) 森林

本県の森林の割合は75.4%で、そのうち民有林が94.2%を占めています。民有林の内訳は人工林が63.3%、天然林（自然植生と代償植生）が34.9%であり、国有林の内訳は人工林が42.3%、天然林（自然植生と代償植生）が49.6%となっています。



出典：平成12年度世界農林業センサス

### 3) 農地

本県の農地の割合は8.4%で、そのうち水田が63.3%、畑が36.2%を占めています。県の北部で耕地面積の減少が進んでいます。

## (3) 法規制

### 1) 都市計画区域

4市12町に都市計画区域が指定されています。都市計画区域の面積は、県土の15%ですが、区域内の人口は全県人口の70%を占めます。また、都市計画区域の14%に相当する市街化区域には、全県人口の42%が居住しています。さらに、3都市計画区域では、用途地域を定め、建築物の規制を行っています。

■都市計画区域一覧

区域名	市町名	面積 (ha)		都市計画区域の範囲	線引き	用途地域
		都市計画区域	行政区域			
徳島東部	徳島市	19,123	19,123	行政区域の全域	○	○
	鳴門市	10,474	13,545	行政区域の一部		○
	阿南市	7,378	25,222	〃		○
	小松島市	4,489	4,489	行政区域の全域		○
	鴨島市	3,376	3,376	〃		○
	石井町	2,883	2,883	〃		○
	北島町	877	877	〃		○
	那賀川町	1,865	1,865	〃		○
	松茂町	1,310	1,310	〃		○
	羽ノ浦町	852	852	〃		○
	計	52,627	73,542			
藍住	藍住町	1,627	1,627	行政区域の全域		
池田	池田町	1,643	16,781	行政区域の一部		○
貞光	貞光町	447	4,540	〃		
牟岐	牟岐町	2,250	5,655	〃		
日和佐	日和佐町	1,550	11,769	〃		○
脇	脇町	2,095	11,109	〃		
合計		62,239	125,023			

出典：徳島県の都市計画及び平成12年度国勢調査

## 2) 風致地区

風致地区は、都市において良好な自然的景観を形成している土地について、その風致を維持し、環境保全を図ることを目的として指定されます。徳島東部都市計画区域で6か所、計1,220haが指定されています。

風致地区では、県条例により、建築などの行為について許可制度による規制が行われています。

■風致地区一覧

区域名	都市名	地区名	面積 (ha)
徳島東部	徳島市	眉山風致地区	約 794
		城山風致地区	21
		日の峰大神子風致地区 ※	182
		小松風致地区	25
	計 4 地区		1,022
	小松島市	日の峰大神子風致地区 ※	78
		金磯弁財天風致地区	8
旗山恩山寺風致地区		112	
計 3 地区		198	
合計 6 地区			1,220

※) 日の峰大神子風致地区は徳島市と小松島市で指定

出典：徳島の都市計画

## 3) 伝統的建造物群保存地区

伝統的建造物群保存地区は、伝統的建造物群が周囲の環境と一体をなして形成している歴史的風致を維持することを目的として定められる地域で、脇町に約5.3haが指定されています。

■伝統的建造物保存地区一覧

区域名	都市名	地区名	面積 (ha)
脇	脇町	脇町南町 伝統的建造物群保存地区	約 5.3

出典：徳島の都市計画

#### 4) 農用地区域

農用地区域は、今後10年以上にわたり農業上の利用を行うものとして指定された集団的農用地などで、本県では、37,873haが農用地区域に指定されています。

農用地区域は、転用が制限されるため、農地が維持される可能性が高い区域と考えられます。

#### 5) 保安林

保安林は、水源のかん養、災害の防止、環境の保全などを目的に指定するもので、伐採などを行う場合には県知事の許可が必要になります。県下森林面積の約32% (100,014ha) を占めています。

#### 6) 自然公園

優れた自然の風景地を保護し、適正な利用を図るための自然公園として、1か所の国立公園、2か所の国定公園、6か所の県立自然公園が指定されています。

■自然公園一覧

種別	名称	面積 (ha)		備考	
		指定種別	計		
国立公園	瀬戸内海国立公園 徳島県地域	特別地区	881	1,538	渦潮・鳴門公園・島田島・大坂峠・小鳴門公園
		普通地区	657		
国定公園	剣山	特別地区	15,980	18,176	剣山・富士の池・一の森・三嶺・夫婦池・ジロウギユウ・大歩危・小歩危・祖谷溪・竜ヶ岳・腕山・深淵
		普通地区	2,196		
	室戸阿南海岸	特別保護地区	92	3,740	津ノ峰・北ノ脇海岸・蒲生田岬・橘湾・田井ノ浜・薬王寺・千羽海崖・阿波大島海中公園地区・八坂八浜・水床湾・阿波竹ヶ島海中公園地区
		特別地区	3,643		
		普通地区	5		
		計		21,916	
県立自然公園	箸蔵	普通地区	1,183	1,183	雲辺寺・箸蔵寺・美濃田の淵
	土柱高越	普通地区	1,586	1,586	土柱・高越山・船窪ツツジ公園
	奥宮川河内谷	普通地区	1,325	1,325	宮川内ダム・御所神社
	大麻山	普通地区	1,309	1,309	大麻山・大麻比古神社
	東山溪	普通地区	3,724	3,724	中津峰山・丈六寺・徳円寺・鶴林寺・太竜寺・鷺敷ライン・一の宮城跡
	中部山溪	普通地区	5,681	5,681	川口ダム・長安口ダム・沢谷・古堂山・轟の滝・神通滝・雨乞いの滝・焼山寺・殿川内
			計		14,808
合計				38,262	

出典：平成12年度 徳島県環境白書

## 7) 自然環境保全地域

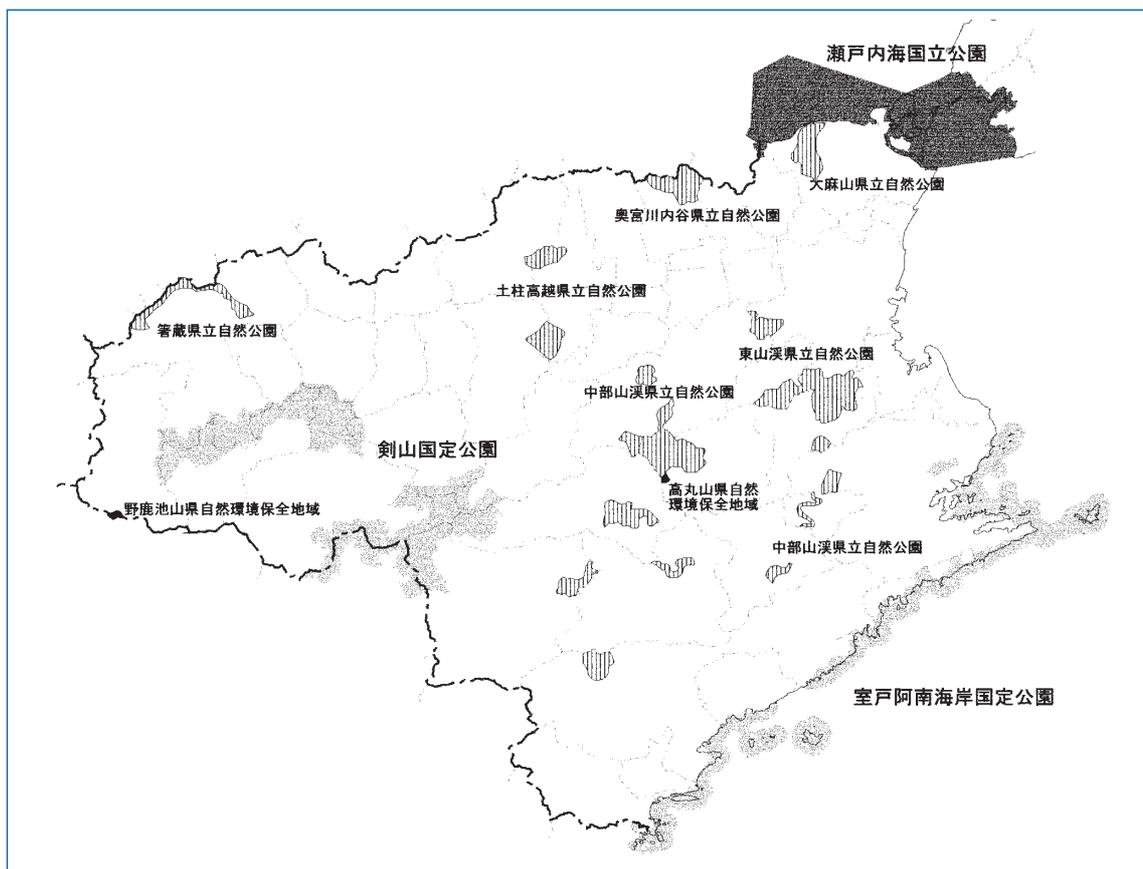
自然環境保全地域は、県内の優れた環境を保全するために、徳島県自然環境保全条例に基づき指定された区域です。2か所、39haが指定されています。

■自然環境保全地域

名称	位置	面積 (ha)		備考	
		指定種別	計		
高丸山 県自然環境保全地域	上勝町の一部	特別地区	20.5	29.0	ブナの原生林
		普通地区	8.5		
野鹿池山 県自然環境保全地域	山城町の一部	特別地区	2.0	10.0	シャクナゲの群生林
		普通地区	8.0		

出典：平成12年度 みどりの要覧（林業統計）、徳島県

■自然公園及び自然環境保全地域位置図



## 8) 鳥獣保護区

鳥獣の保護繁殖を図るため、県土の約6%に相当する55か所23,580haが鳥獣保護区（国設を含む。）として設定されています。また、鳥獣保護区内において、鳥獣の繁殖を図る上で特に重要な地域については、23か所2,829haを特別保護区（国設を含む。）とし、立木の伐採、工作物の設置制限などの規制が行われています。

## (4) 都市施設など

### 1) 道路・鉄道

都市計画道路は390.6kmが計画決定されており、このうち46.9%が既に整備されています。

県内の高速道路、一般国道、県道、市町村道の総延長は14,273kmです。

ビオトープネットワークの視点からは、道路は陸上を移動する動物の移動経路を分断する要素になります。一方、道路沿いに自然を創出することにより、動物の移動経路として機能させることが可能となります。

### 2) 鉄道

鉄道は、四国旅客鉄道（JR四国）と阿佐海岸鉄道の路線が開設されており、このうちJR四国には、高德線、鳴門線、牟岐線、徳島線、土讃線の5路線があります。

鉄道も道路と同様に、ビオトープネットワークの視点からは、陸上を移動する動物の移動経路を分断する要素になります。一方、鉄道沿いに連続した自然を創出することにより、動物の移動経路として機能させることが可能となります。

■道路・鉄道の整備状況



※道路は、高速道路・国道・県道・主要地方道を示した。

### 3) 公園緑地

都市公園は119か所、816.68haが計画決定されています。計画決定されていない公園も含めて230か所、389.63haの公園緑地が整備されています（平成13年3月末現在）。

### 4) 学校

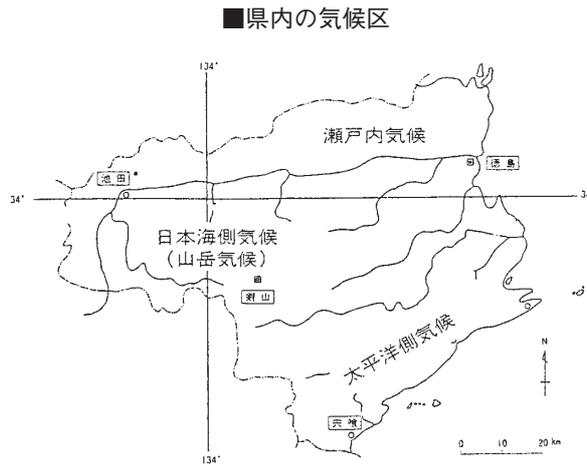
学校は、小学校239校、中学校95校、高等学校44校が設置されています（平成13年末現在）。

## 3-2 自然の概況

### (1) 気候・気象

#### 1) 気候

本県の気候は、地形の影響を受けて、北部は日本の小雨地域である瀬戸内気候（温暖乾燥）、南部は日本の最多雨地域である太平洋側気候（温暖湿潤）、そして西部は冷涼な山岳気候（冷涼湿潤）に区分されます。



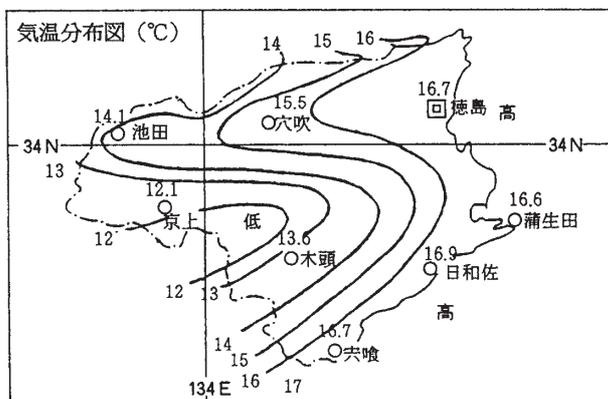
出典：徳島環境プラン資料編（平成7年度）

#### 2) 気象

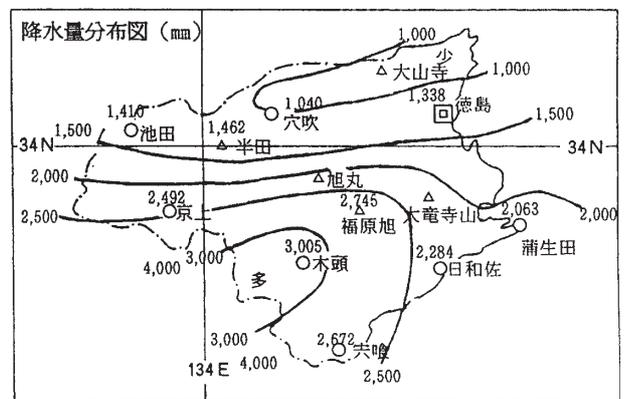
平成12年の年平均気温の分布を見ると、県の沿岸部では約17℃である一方、県西部および山間部では12～15℃とやや冷涼になります。

平成12年の年降水量については、剣山山系南東側（木頭3,005mm, 福原旭2,745mm）が最も多く、次いで南部沿岸地方（穴喰2,672mm）が多い地域となっています。一方、剣山山系を境として、県北部（徳島1,338mm、池田1,410mm、穴吹1,040mm）では降水量が少なくなり、県南部の約2分の1の降水量となっています。

■年平均気温・年平均降水量の分布（平成12年）



平成12年の年平均気温分布図



平成12年の年平均降水量分布図

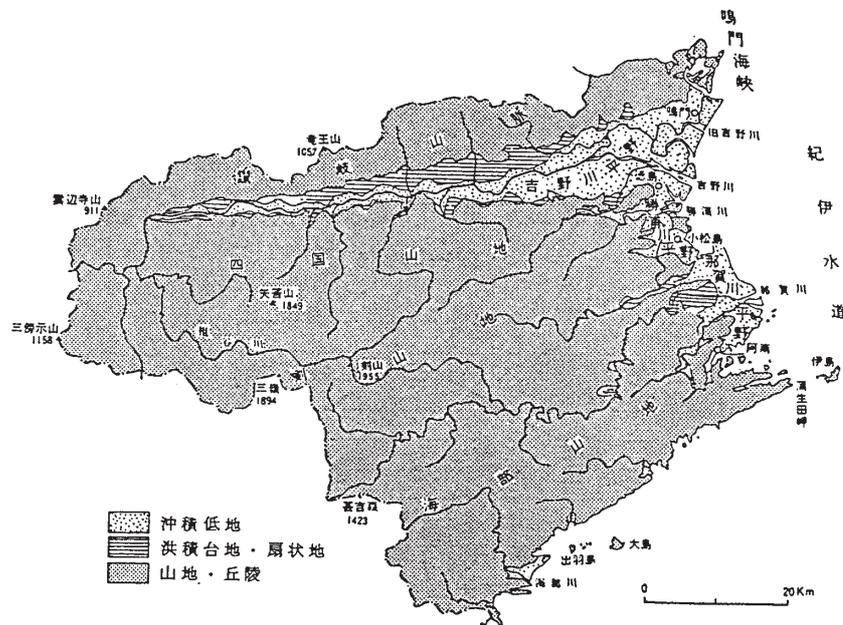
## (2) 地形

本県の地形は、東西方向に分布する地質構造の影響を受けており、東西方向に山地や河川が分布しています。

山地は、讃岐山脈、四国山地、海部山地の3つに大別されます。北部の讃岐山脈は、標高が500～1,000mと比較的低く、山麓に扇状地を伴っています。四国山地は、剣山(1,954.7m)や三嶺(1,893.4m)など、標高1,000m以上の本県で最も高い地域を含む山地で、地すべり地形が発達しています。海部山地や四国山地の一部である剣山地では、崩壊による山麓堆積地形が見られます。

低地は、吉野川沿いのものが最大で、次いで東部沿岸の勝浦川、那賀川、桑野川の下流に見られます。県南では、海部川河口付近などに小規模な低地が見られます。

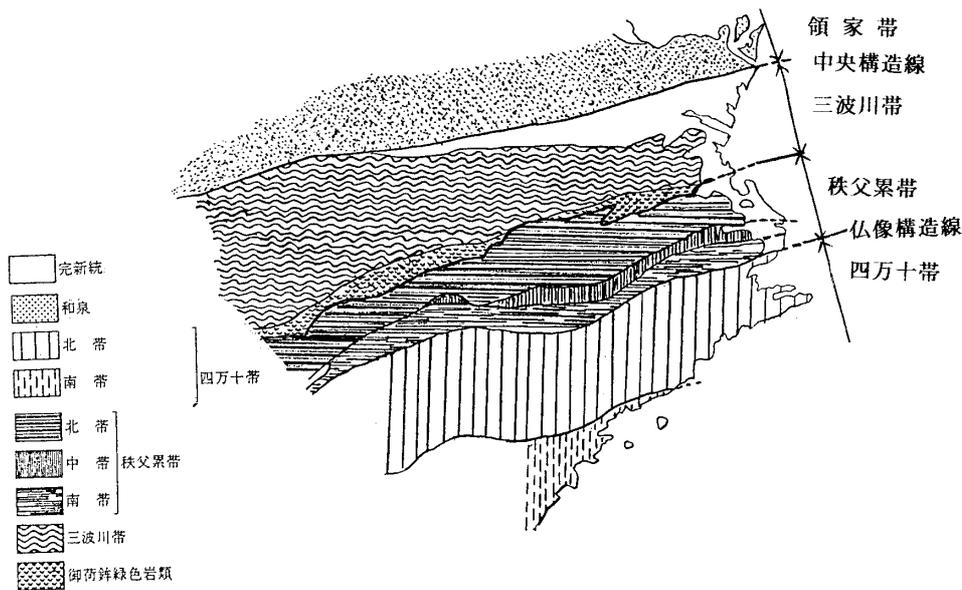
■徳島県の地形区分（寺田恒夫・町田貞原図）



## (3) 地質

本県の地質構造は、中央構造線や仏像構造線などの構造線により切られ、東西に帯状に分布しています。北から、砂岩・泥岩などから構成される領家帯(和泉層群)、結晶片岩などから構成される三波川帯、御荷鉾緑色岩類、秩父累帯、砂岩・泥岩などからなる四万十帯の順に並んでいます。洪積層は、吉野川や那賀川などの河川流域で、また、沖積層は、吉野川下流の徳島平野から那賀川河口域にかけての沖積低地や各河川の河口部などで見られます。

■徳島県の地質区分



(日本の地質 8 四国地方 (須鎗ほか編、1991) より抜粋)

#### (4) 河川

本県の河川は、四国山地北側の吉野川水系と南部の那賀川水系、勝浦川など四国山地から東流して紀伊水道に注ぐ河川が代表的ですが、県南の太平洋岸では、海部川のように南流するものが見られます。

河川の特徴としては、県下全域が台風の常襲地帯であり、年間 2,000mm 以上の降水量がある山地が流域の 7 割を占め、流出率が非常に高いほか、県西部の吉野川の各支川では俗に鉄砲水という出水が発生し、吉野川北岸では天井川を形成しています。

また、吉野川下流では、幾度か流路が変更した名残として、平野部に派川が形成されています。派川流域のほとんどが平坦地であり、流下能力に乏しく、洪水時には冠水する河川も見られます。

#### (5) 海洋

本県周辺の海況は、室戸沖や和歌山沖を黒潮分岐流が北上する一方、本県沖を鳴門海峡から流出する内海水や紀伊水道沿岸水が南下しています。

自然海岸の総延長に対する割合は、平成 6 (1994) 年の時点で 51.04% で、同様に砂浜海岸の割合は 7.86% に過ぎません。干潟については、平成 6 (1994) 年の時点で、紀伊水道西海域に 10 か所 118ha、徳島 (太平洋) 海域で 1 か所 6 ha があります。また、1 ha 以上の藻場については、平成 6 (1994) 年までに 19 か所 108ha が減少し、196 か所 1,421ha となっています。造礁サンゴについては、平成 6 (1994) 年の時点で、大島・竹が島周辺に 7.1ha が分布しています。

## (6) 野生生物

県内の野生生物の生息・生育状況について以下に整理します（徳島環境プラン、徳島県版レッドデータブック<sup>用語</sup>より引用）。

### 1) 植物

#### ①植物相

##### ア) 維管束植物

徳島県植物誌によると、帰化植物を除いた本県に生育する維管束植物は2,858種類に上ります。その後シマキケマン、オオバヤドリギ、イトクズモ、ミヤコミズなどが新たに見つかっていますので、その数は増えています。

徳島県には黒潮に面した県南の暖かい気候から、剣山山頂の寒い気候まであり、南方系や北方系の植物が幅広く見られ、豊かな植物相を構成しています。そのうち、レンゲショウマ、タカネイバラ、スミレサイシンなどの植物は本県を南限域とし、ヤッコソウ、アコウ、ヒゼンマユミは北限域としています。日本の固有種としては、コウヤマキ、ヤハズアジサイ、タヌキノショクダイなどが分布しており、その中でもナガガワノギク、ナルトオウギ、コブシモドキなどは本県だけに生育している貴重な植物です。腐生植物や寄生植物が多産することも本県の特徴で、タヌキノショクダイ、アワムヨウラン、ヤッコソウなどが県南を中心に分布しています。湿地性植物や水草なども豊富で、サギソウやサワギキョウ、ミズトラノオ、ミズトンボ、アサザ、オニバスなどの植物が生育していますが、開発などにより絶滅の危機に瀕しています。

県産の維管束植物のうち「環境省版レッドデータブック」に234種、「徳島県版レッドデータブック」に814種が、絶滅のおそれのある種として掲載されています。このうち30種は県内ですでに絶滅したと考えられています。

##### イ) 高等菌類（キノコ）

本県に分布するキノコは1986年現在約400種が記録されており、その後の調査により、現在では、500種前後が分布しているものと考えられます。

##### ウ) 藻類

淡水及び汽水<sup>用語</sup>に生育する藻類についての概要は、はっきりしていません。その中で、特に重要なものとしてシラタマモが挙げられます。

シラタマモは、塩分を含んだ淡水中で生育する珍しい藻類で、現在、日本で自生しているのは出羽島だけであり、世界の北限ともなっています。シラタマモは、出羽島でも減少傾向にあり、種の存続が懸念されています。

## ②植生

本県の自然植生<sup>用語</sup>は1,000m付近までヤブツバキクラスにまとめられる常緑広葉樹林帯であり1,000m以上がブナクラスにまとめられる夏緑広葉樹林帯になっています。また1,700m付近より高海拔地は、常緑針葉樹林のシラビソ林、あるいはミヤマクマザサ群落などの風衝草原が広がっています。

本県では、植林が進み、自然植生（原植生）とされる地域の面積は4.1%に過ぎません。吉野川、那賀川沿いなどの沖積地を除いた本県の大部分は、讃岐山脈、四国山地、海部山地などの山地、丘陵が連なっており、多くはスギを中心とする植林で占められています。人為的影響のもとに成立した二次林<sup>用語</sup>は、地域によって異なっており、県の東部から南部にかけての海拔200m以下（一部400m付近まで）の臨海低海拔地では、シイ、カシ、ウバメガシなどの優占する常緑広葉樹林が、内陸では、クヌギーコナラ群集などの夏緑広葉樹林が分布しています。県北部では、コバノミツバツツジアカマツ群集などのアカマツが優占する二次林が広がっていましたが、現在、これらは、松枯れなどによって減少し、コナラ林などが増えてきています。

●徳島県の植物帯



出典：1980年徳島県高等学校理科学会誌第21号 p.36 徳島の植生（1）自然環境と植生概観

## 2) 動物

### ①脊椎動物

#### ア) 哺乳類

哺乳類は51種が確認されています。このうち、「環境庁レッドリスト」に4種（ツキノワグマ・カワウソ・クロホオヒゲコウモリ・コテングコウモリ）、「徳島県版レッドデータブック」に9種（上記4種に加え、トガリネズミ・ノレンコウモリ・ウサギコウモリ・キツネ・ヒメヒミズ）が記載されています。

#### イ) 鳥類

鳥類は336種の確認記録があります。このうち、「環境庁レッドリスト」に61種、「徳島県版レッドデータブック」に74種が記載されています。また地域的な特色として、吉野川河口域（吉野川大橋下流、約9km<sup>2</sup>）においては、チドリ目、ガンカモ類など合計151種もの野鳥が観察されています。この中にはカラフトアオアシシギなど、絶滅の危機に瀕している種が含まれています。

#### ウ) 爬虫類

爬虫類は18種が確認されています。このうち、「環境庁レッドリスト」に2種（アカウミガメ・スッポン）、「徳島県版レッドデータブック」に8種（上記2種に加え、イシガメ・タワヤモリ・タカチホヘビ・シロマダラ・ジムグリ・ヒバカリ）が記載されています。

#### エ) 両生類

両生類は17種が確認されています。このうち、「環境庁レッドリスト」に1種（オオサンショウウオ）、「徳島県版レッドデータブック」に6種（オオサンショウウオに加え、カスミサンショウウオ・ブチサンショウウオ・ハコネサンショウウオ・ニホンアカガエル・オオダイガハラサンショウウオ）が記載されています。

#### オ) 魚類

淡水魚・汽水魚は233種が確認されています。このうち、「環境庁レッドリスト」に15種、「徳島県版レッドデータブック」に54種が記載されています。

また、吉野川河口の良好な環境に保たれた軟泥質の干潟に住むタビラクチは、天然記念物に指定されている阿南市のオヤニラミや海部町のオオウナギと同等の価値を持つものであり、生息環境の保全に留意する必要があります。

## ②無脊椎動物

昆虫類は、約4,000種、その他の無脊椎動物は1,366種が記録されています。

### ア) 軟体動物

陸産・海産・淡水産軟体動物（貝類）のうち、「環境庁レッドリスト」に28種、「徳島県版レッドデータブック」に52種が記載されています。

淡水貝には、河川の流水中に生息するものと、池や沼、あるいは水田などに生息するものがあります。これらは、近年農薬や合成洗剤などの生活排水の流入、河川や用水の整備などによって絶滅したり、著しく減少したものが少なくありません。県内の河川や小流にはマシジミや、カワコザラが生息しています。カワニナやミスジカワニナも同様の原因により著しく減少しており、飯尾川の限られた地域に住んでいたトンガリササノハや、かつて阿南市で確認されたカワネジガイは現在見られません。分布的に珍しい種としては、石灰洞に住むホラアナミジンナや高山に分布するコバンナリマメシジミなどが知られています。

本県の吉野川河口域などに分布するハマグリは、水産庁の資料によると希少種として扱われています。

### イ) 節足動物

#### a. 甲殻類

甲殻類は「環境庁レッドリスト」に2種（シオマネキ・ハクセンシオマネキ）、「徳島県版レッドデータブック」に22種が記載されています。

#### b. 昆虫類

昆虫類は「環境庁レッドリスト」に25種、「徳島県版レッドデータブック」に94種が記載されています。

トンボ目（蜻蛉目）については、88種が何らかの形で記録が公表されています。

チョウ類（鱗翅目）は、現在県内ではチョウ（迷蝶を除く。）だけでも約100種が生息していることになっています。

また、甲虫（鞘翅目）は約3,000種が確認されています。このうち、ホタルは、一般の県民の目につきやすい甲虫の一つで、県内ではゲンジボタルやヘイケボタルをはじめ、ヒメボタル、オバボタルなどが生息しています。ゲンジボタルは、清流に生息し、カワニナを捕食しますが、農薬の使用や河川改修、水銀灯の設置など環境の変化により個体数が激減しています。

#### c. ヤスデ類

県内で確認されているヤスデ類については、リュウオビヤスデ及びホシオビヤスデが「環境庁レッドリスト」および「徳島県版レッドデータブック」に記載されています。

## (7) 名勝・天然記念物、特定植物群落、巨樹など

### 1) 名勝、天然記念物

学術上貴重な動植物や優れた自然景観として名勝が2件、名勝・天然記念物が2件、また天然記念物に地質鉱物10件、動物10件、植物56件が指定されています。他に市町村の指定する天然記念物もあります。

### 2) 特定植物群落

環境庁の第2回自然環境保全基礎調査(1978)において、原生林、稀な植物群落、郷土景観を代表する植物群落など、学術上重要な群落及び個体群について68群落の植生状況、面積、保護の現状を取りまとめています。

また、続く、第3回自然環境保全基礎調査(1988)では、新たに19群落を追加されたものの、伐採や環境の変化によって特定植物群落から削除せざるを得なかったものが3群落、面積を縮小せざるを得なかったものが1群落あり、現在では計84群落となっています。

### 3) 巨 樹

1988年時点で、本県では、巨樹(地上130cmの位置で幹周(囲)が300cm以上の樹木)が984本確認されていますが、現在までの調査では2,000本を超えると推測されています。巨樹は、良好な景観の形成や野生生物の生息など、自然環境保全上重要な価値を有するとともに、過去の気象の分析などの研究素材などの学術的価値や、木によっては、地域のシンボル、信仰の対象として人々に安らぎを与えるなどの役割を果たしています。

### 4) 自然景観資源

環境庁の自然景観資源調査では、自然景観の骨格をなす地形・地質及び自然景観として認識される自然現象を対象に、際立って特徴的な地形など、県内の163か所を自然景観資源として抽出しています。

## ■特定植物群落一覧

番号	群落名	番号	群落名
1	伊島の暖地性植物群落	45	脇町御所神社のツガ林
2	飛島のイブキ群落	46	高越山のブナ林
×3	竜宮の磯海浜植物群落	47	宮内のコジイ林
4	大麻山の暖地性植物群落	48	船窪のツツジ群生地
5	木津の沼沢植物群落	49	ボロボロ滝のケヤキ林
6	徳島市城山の原生林	50	申太郎山のモミジカラマツ・レンゲシヨウマ群落
7	眉山の暖地性植物群落	51	剣山の冷温帯並びに亜寒帯林
8	籠の塩生植物群落	×52	湯桶丸の原生林
×9	淡島の海浜植物群落	53	高の瀬峡の石灰岩植物群落
10	弁天島熱帯性植物群落	54	石立山の高山植物群落
11	海正八幡の暖地性植物群落	55	池野河山のスギ天然林
12	金磯のアコウ自生地	56	箸蔵寺の暖地性植物群落
13	勝浦町中山の暖地性植物群落	57	井川町新田神社の中間温帯林
14	長生の暖地性植物群落	58	矢筈山・烏帽子山の冷温帯林
15	太竜寺山のカヤ林	59	東祖谷のイヤギボウシ群生地
16	蒲生田のアンペライ自生地	60	三嶺・天狗塚のコメツツジ群落
17	北河内のタチバナ自生地	61	黒沢の湿原植物群落
18	薬王寺のシイ林	62	中津山のジュンサイ群生地
19	馬地八幡神社の暖地性植物群落	63	国見山のブナ林
20	宮川内のウバメガシ林	64	大歩危の河床植物群落
21	敷島神社のコジイ林	65	雲辺寺山の中間温帯林
22	大川原高原のツツジ群落	66	塩塚峰のオオバギボウシ群落
23	鷺敷ラインの河床植物群落	67	平賀神社のカシ林
24	焼山寺山の中間温帯林	68	野鹿池山のシャクナゲ群落
25	柴小屋のブナ林	69	鳴門市阿波井神社のスダジイ林
26	雲早山のブナ林	70	松茂町月見ヶ丘海岸の砂丘植生
27	杖谷山の石灰岩植物群落	71	吉野川河口のヨシ群落
28	沢谷のタヌキノシヨクダイ発生地	72	鳴門市春日神社のスダジイ林
29	大美谷の蛇紋岩植物群落	73	蒲生田岬のウバメガシ林
30	臼ヶ谷のカヤ林	74	高城山のブナ林
31	水崎のカシ林	75	網代崎のスダジイ林
32	喜来のナギ林	76	海南町大里八幡神社のスダジイ林
33	古屋・春日神社のコジイ林	77	海部町小島のスダジイ林
34	成瀬神社のアカガシ林	78	海南町王子神社のコジイ林
35	上那賀町礫神社のアカガシ林	79	肉漕谷のブナ林
36	轟ノ滝のカシ林	80	三嶺のブナ林
37	大島のタチバナ自生地	81	三嶺のウラジロモミ林
38	津島の暖地性植物群落	82	折宇谷のコウヤマキ林
39	出羽島大池のシラタマモ自生地	83	大川山のイヌシデ林
40	奥浦のヤッコソウ北限地	84	三加茂町新田神社のアラカシ林
41	櫛川のヒロハミミズバイ林	85	井川町多美湿原
42	那佐半島のアオギリ林	86	井川町岩坂山ノ神のアカガシ林
43	鈴ヶ峰のヤッコソウ自生地	87	西祖谷山村水ノ口湿原
44	宍喰町八坂・八幡神社のシイ林		

注:×については第3回自然環境保全基礎調査(1986年)において削除

(平成8年度 環境資源情報図より)